

東国分薬師道南遺跡

—— 携帯電話無線基地局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 ——

2 0 0 8

高 崎 市 教 育 委 員 会

例 言

1. 本書は、携帯電話無線基地局建設に伴う東国分薬師道南遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本遺跡は群馬県高崎市東国分町150番地 6 他に所在している。
3. 本調査及び整理作業は高崎市教育委員会が、委託契約を締結した有限会社毛野考古学研究所の協力を得て実施した。
4. 発掘調査の体制は以下の通りである。
高崎市教育委員会 神戸聖語、田口一郎、斎藤寛方
有限会社毛野考古学研究所 宮本久子
5. 発掘・整理作業は、平成19年12月 3 日～平成20年 3 月31日の期間で実施した。
6. 本遺跡は高崎市教育委員会の遺跡番号で410である。
7. 本書の執筆については、I を斎藤、それ以外を宮本が行った。
8. 本書に関わる資料は一括して高崎市教育委員会が保管している。
9. 発掘調査・整理作業に携わった方々は以下の通りである。
【発掘調査】會田 彰 小林 進 小林義孝 田口文雄 村尾 定
【整理作業】土井道昭 永井祐二 日沖美奈子
10. 発掘調査の実施から報告書の刊行に至る過程で下記の機関・諸氏のご協力を賜りました。記して感謝申し上げます。(五十音順・敬称略)
(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店 カネコハウス(有) (株)測研 明総 J T空撮 櫻井和哉

凡 例

1. 遺構挿図の縮尺は平面図及び土層図を縮尺 1 / 60、各挿図にはスケールを付してある。また、図中の北方位は座標北であり、世界測地系の座標値は遺跡全体図中に示してある。
2. 遺構断面図、セクションポイントの標高は全て128.0mで統一している。
3. 遺構平面図中のドットは土器・鉄製品の出土位置を示す。
4. 遺物挿図の縮尺は、1 / 3 を基本とし、鉄製品・石製品は 1 / 2 で掲載した。各図中にはスケールを付してある。遺物写真は遺物図版とほぼ同縮尺である。
5. 遺物挿図の断面黒塗りは還元焰焼成を、トーンは灰釉陶器を示す。
6. 遺構及び土器の色調観察は『新版 標準土色帳』（農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修 2006）に従っている。

目 次

例 言	
凡 例	
目 次	
I 調査に至る経緯	1
II 地理的・歴史的環境	2
1 地理的環境	2
2 歴史的環境	2
III 調査の方法と経過	3
1 調査の方法	3
2 調査の経過	3
IV 基本層序	4
V 検出された遺構と遺物	4
1 住居跡	4
2 土 坑	6
3 溝	8
4 遺構外出土遺物	8
VI ま と め	10
写真図版	
抄 録	

挿図目次

第1図 調査区の位置	1	第5図 2号・3号住居跡、土坑、溝土層断面	7
第2図 周辺の遺跡	2	第6図 出土遺物	9
第3図 基本層序	4	第7図 国分寺・国分尼寺中間地域D・F区との 位置関係	10
第4図 調査区全体図・1号住居跡土層断面 1号、2号住居跡掘り方	5		

表 目 次

第1表 出土遺物観察表	8
-------------	---

写真図版目次

写真図版 1 調査区全景	写真図版 2 3号住居跡全景
写真図版 2 基本層序	3号住居跡遺物出土状況
1号住居跡全景	1、3号土坑全景
1号住居跡カマド	写真図版 3 出土遺物
2号住居跡全景	

I 調査に至る経緯

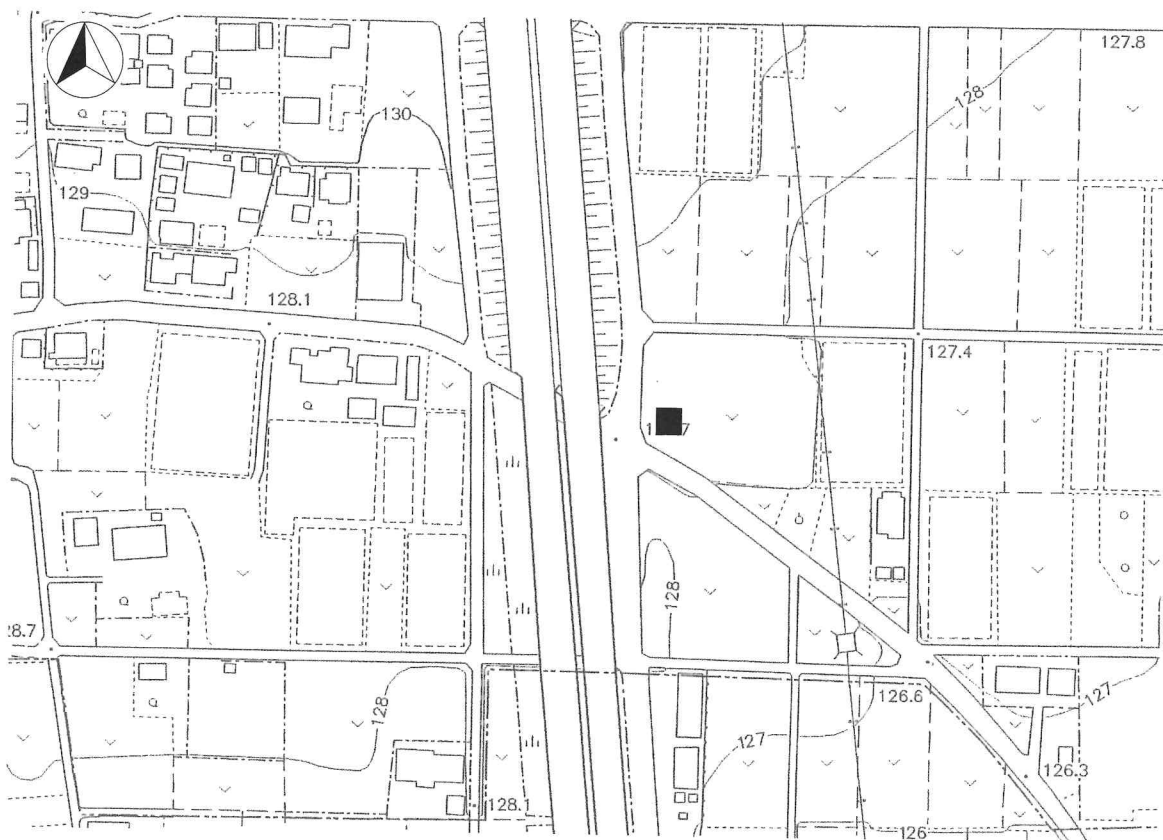
本調査は、高崎市東国分町150番地 6 他における携帯電話無線基地局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査である。

平成19年9月、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店（以下事業者）から高崎市教育委員会（以下市教委）に携帯電話無線基地局建設予定地の埋蔵文化財の状況についての照会があった。市教委は、該当の場所が平安時代集落跡として遺跡台帳に登録された埋蔵文化財包蔵地内にあるため、工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

平成19年9月18日、市教委は工事予定地の確認調査を実施し、平安時代住居跡等の遺構を確認した。

市教委は埋蔵文化財の保護について事業者と協議を重ねたが、建設予定の変更は不可能ということなので、事業者から提出された文化財保護法第93条第1項の規定による届出について、工事による埋蔵文化財の破壊が確実な旨の協議経過書を添えて群馬県教育委員会（以下県教委）へ進達した。平成19年11月15日付けで県教委は事業者へ工事前に発掘調査を実施するよう指示を出した。

発掘調査は市教委の指示・監督のもと、有限会社毛野考古学研究所に委託して実施することとなった。



第1図 調査区の位置（S=1/2,500）（高崎市都市計画基本図（2008）をもとに作成）

II 地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

本遺跡は、榛名山の東部山麓から南東に広がる相馬ヶ原扇状地から前橋台地との移行地帯に立地する。相馬ヶ原扇状地は標高約660mの扇頂部から標高約110mの前橋台地へと高低差約550mを傾斜しながら移行している。本遺跡周辺は、牛池川や染谷川といった小河川の氾濫によって分断された微高地の多い地形を呈している。

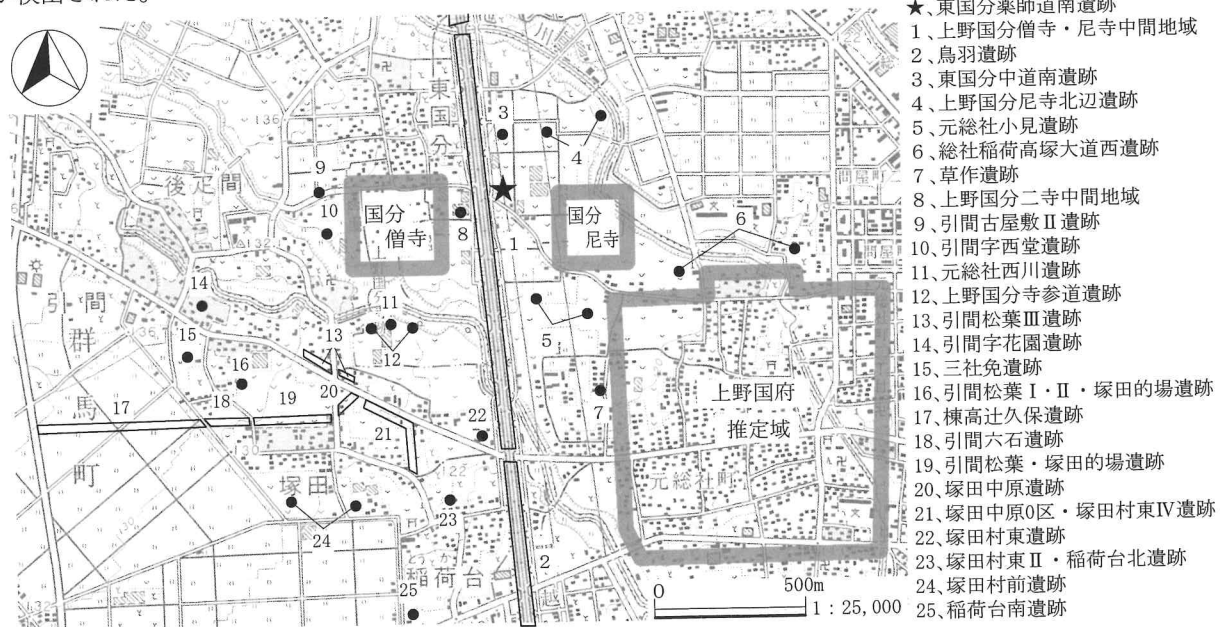
2. 歴史的環境

縄文時代・弥生時代 当該地域において、縄文及び弥生時代の遺構・遺物は少ない傾向にある。縄文時代の遺構は、国分僧寺・尼寺中間地域(1)、鳥羽遺跡(2)や、元総社小見遺跡(5)で中期後半の住居が検出されている。弥生時代の遺構は検出されていないが、国分僧寺・尼寺中間地域や元総社西川遺跡(11)、鳥羽遺跡において、後期の樽式土器が出土している。

古墳時代 前期は、元総社西川遺跡において住居跡が4軒検出され、良好な一括資料が出土している。中期以降、集落は扇頂部寄りに展開され、鳥羽遺跡や国分僧寺・尼寺中間地域、引間松葉遺跡Ⅲ区(13)、上野国分寺北辺遺跡(4)などに住居跡が点在している。また、北原遺跡では、谷地地形を利用した大規模な水田跡が検出されている。

奈良・平安時代 本遺跡は上野国国分寺と国分尼寺の中間に位置している。国分僧寺と尼寺は、天平13(741)年に聖武天皇が鎮護国家のため、各国に作らせた寺院である。国分僧寺は、七重塔・金堂・講堂・僧房・南大門・築塀が検出されている。この中で塔建立時の遺構が8世紀前半の住居を埋め戻して造成されており、聖武天皇の詔と時期が一致している。国分尼寺は、国分僧寺の東方約500mに建立されている。発掘調査の結果、寺院の範囲は明らかとなっているものの、伽藍配置などは不明である。国分二寺以外にも、北東約1km先に山王廃寺、南東約500mに上野国府が立地するなど、本遺跡周辺は、古代上野国の中心地であり、該期の集落遺跡も多い傾向にある。

中世 国分僧寺・尼寺中間地域D・F区において、溝で区画された内側に掘立柱建物跡、竪穴状遺構、石造仏の投棄された井戸跡が配される館跡(薬師道南館跡)が見つかっており、東国分中道南遺跡(3)からも、箱研の堀が検出されている。また、引間松葉遺跡(19)や塚田村東Ⅳ遺跡(21)では渡来銭や和鏡を副葬する土坑墓や火葬墓が検出された。



第2図 周辺の遺跡 (1/25,000 国土地理院発行「前橋」をもとに作成)

Ⅲ 調査の方法と経過

1. 調査の方法

高崎市教育委員会の確認調査で、現地表面より20～30cm下の浅間C軽石を含む黒色土から古代の遺構が検出された。この結果を受け、本調査においても同じ確認面を捉えるべく表土を重機によって掘削した。しかしながら、調査区全体に攪乱が及んでおり、遺構の確認は困難であった。このため、調査区北西隅にテストピットを掘削し、表土から約40cmの層で遺構の確認が可能であると判断した。人力で調査区を掘り下げて遺構を確認した。遺構の調査は、その埋没状態や構築状態、出土遺物状態を写真および図面にて観察・記録した。

遺構の平面図と断面図は、縮尺1/20で作成した。

写真撮影は35mm白黒・カラーリバーサルを用い、補助としてデジタルカメラも使用した。遺構の全体写真はラジコンヘリを用いて撮影した。

2. 調査の経過

調査面積は約64㎡である。現地発掘調査は2007（平成19年）12月3日から14日にかけて実施した。

- 12月3日 重機による表土除去。プレハブ及び仮設トイレの搬入。午後より、遺構のプラン確認を行う。
 - 12月4日 1号土坑の掘り下げ。2号住居跡のプラン確認。基本層序のためのテストピット掘削を行う。
 - 12月5日 サブトレンチを掘削し、遺構確認面を検出する。1号土坑の完掘、写真撮影。2号住居跡の掘り下げ。
3号住居跡プラン確認、掘り下げ。
 - 12月6日 調査区の掘り下げ。1号住居跡のプラン確認、掘り下げ。2号・3号住居跡の掘り下げ、写真撮影。
2号土坑のプラン確認。1号溝を検出し、掘り下げを行う。
 - 12月7日 1号～3号住居跡、1号・2号土坑、1号溝平面図・断面図の測量。2号住居跡掘り方調査を行う。
 - 12月10日 1号・2号住居跡の掘り方調査。3号～7号土坑の完掘。
 - 12月11日 ラジコンヘリによる空撮を行う。調査区北側において遺構が希薄であるので、最終確認のためサブトレンチを掘削するが、遺構は検出されなかった。
 - 12月12日 1号・2号住居跡掘り方平面図、3～7号土坑平面図、ピット平面図、1号～3号住居跡・1号土坑・
6号土坑・7号土坑・1号溝土層断面図測量を行う。
 - 12月13日 プレハブ・仮設トイレ・器材の撤収。
 - 12月14日 調査区の埋め戻しを行い、現地における調査を終了した。
- 引き続き、遺物の洗浄・注記・接合・復元・実測・トレース、遺構図面の修正・トレース等の整理作業を断続的に行い、平成20年3月31日に報告書刊行の運びとなった。

IV 基本層序

調査区の北東隅において、基本土層の観察・記録を行った(第3・4図)。層序は以下の通りである。

I層：耕作土層。浅間B軽石(以下 As-B と略す)を多量に含む。

しまり、粘性はない。

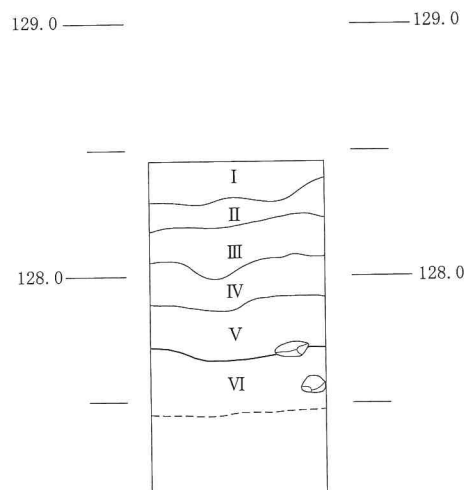
II層：10YR3/3暗褐色土層。As-B を少量、浅間C軽石(以下 As-C と略す)を少量含む。粘性なく、しまりやや強い。

III層：10YR2/2黒褐色土層。As-C($\phi 0.1 \sim 0.8\text{cm}$)を多量含む。粘性なし、しまりあり。

IV層：10YR2/2黒褐色土層。III層に似る。As-C($\phi 0.2 \sim 0.5\text{cm}$)少量、ローム粒子ごく微量含む。粘性なし、しまりあり。

V層：10YR3/4暗褐色土層。白色粒子($\phi 0.1\text{cm}$)、ローム粒子を微量含む。

VI層：10YR5/6黄褐色土層。小礫を含む。地山層。



第3図 基本層序 (S=1/30)

V 検出された遺構と遺物

1. 住居跡

1号住居跡(遺構：第4図、写真図版2／遺物：第6図、写真図版3)

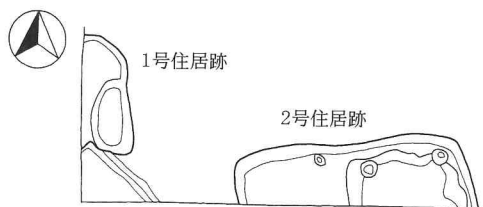
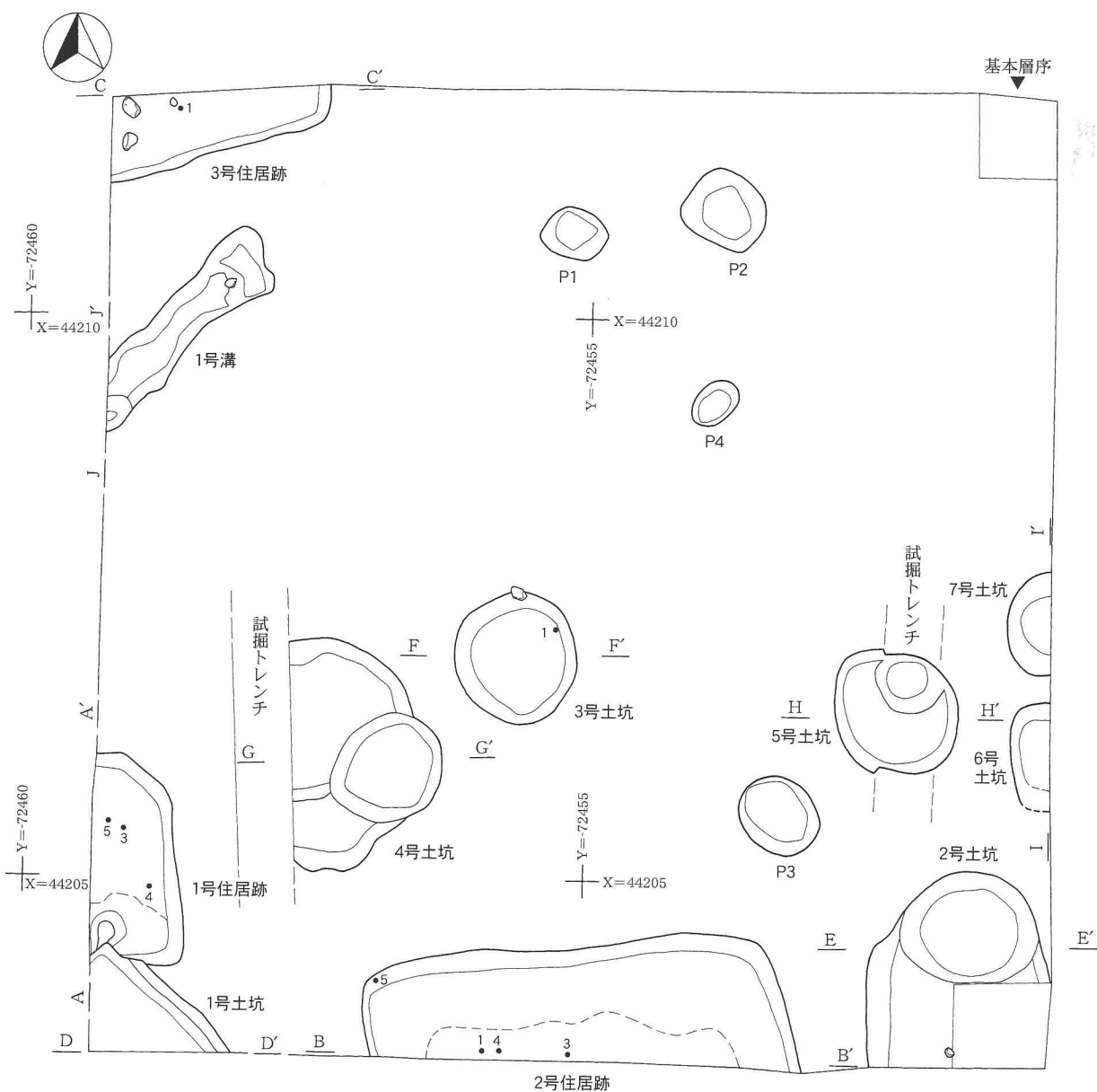
検出状態：調査区西壁において、東壁とカマドの一部を検出した。1号土坑と重複し、本遺構が古い。**平面形態：**全体は不明だが、方形を呈すると思われる。**規模：**180cm×一。小規模な竪穴である。**主軸方位：**N—5°—W。**残存深度：**約30cm。**床面の状態：**全体的に硬くしまる。カマド周辺には As-C を含む貼り床が構築されている。**壁周溝：**検出されなかった。**柱穴：**検出されなかった。**カマド：**南壁に付設する。大半は1号土坑に破壊されている。**貯蔵穴：**検出されなかった。**遺構埋没状況：**自然埋没と思われる。**遺物出土状態：**南西隅の床面直上より刀子が、覆土上層からは被熱した瓦が出土している。**遺物：**土師器の小片や、被熱した凝灰岩が出土している。**時期：**出土遺物から11世紀前半と推定される。

2号住居跡(遺構：第4・5図、写真図版2／遺物：第6図、写真図版3)

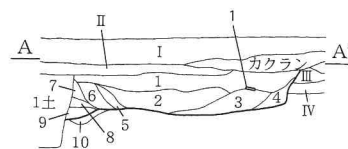
検出状態：調査区南壁において、北壁を検出した。大部分は調査区外へと広がる。**平面形態：**全体は不明だが、方形もしくは長方形を呈すると思われる。**規模：**372cm×一。**主軸方位：**N—84°—E。**残存深度：**約30cm。**床面の状態：**住居の中央部分に As-C を含む貼り床が構築される。壁面周辺は地山が露出する。**壁周溝：**検出されなかった。**柱穴：**検出されなかった。**カマド：**検出されなかった。**貯蔵穴：**検出されなかった。**遺構埋没状態：**自然埋没と思われる。**遺物出土状態：**床面直上から瓦片が出土する。**遺物：**須恵器や土師器の小片、羽釜の破片が出土している。図示した土師器の坏には、煤が付着している。**時期：**出土遺物から10世紀前半と推定される。

3号住居跡(遺構：第4・5図、写真図版2／遺物：第6図、写真図版3)

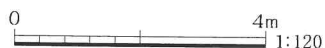
検出状態：南壁と東壁の一部を検出した。大部分は調査区外へと広がっている。**平面形態：**全容は不明だが、方形もしくは長方形を呈すると思われる。**規模：**不明。**主軸方位：**N—71°—E。**残存深度：**約42cm。**床面の状態：**床面は若干硬化するものの、貼り床は検出されなかった。南東隅の床上には、焼土と炭化物が散っていた。**壁周溝：**検出されなかった。**柱穴：**検出されなかった。**カマド：**検出されなかった。**貯蔵穴：**検出されなかった。**遺**



1号・2号住居跡 掘り方



1号住居跡



1号住居	1	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒子・As-C (φ0.1cm) 微量含む。粘性・しまりあり。
	2	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒子・As-C (φ0.1cm) 少量含む。粘性あり・しまりやや強。
	3	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒子・As-C (φ0.1cm) 少量、焼土微量、浅黄色土中量含む。粘性あり、しまりやや強。
	4	10YR4/4	褐色土	ローム粒子・As-C 微量含む。粘性やや弱、しまりあり。
	5	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒子・As-C (φ0.3cm) 少量、焼土微量含む。粘性あり、しまりやや強。
カマド	6	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒子・As-C (φ0.1cm) 微量、焼土少量含む。粘性・しまりあり。
	7	7.5YR4/4	褐色土	ローム粒子微量、焼土多量含む。粘性・しまりあり。
	8	7.5YR4/6	褐色土	ローム粒子微量、焼土多量含む。粘性あり、しまりやや弱。
	9	7.5YR4/3	褐色土	ローム粒子・As-C (φ0.1cm) 微量、焼土少量含む。粘性・しまりあり。焼土・炭化物中量含む。しまりやや強、粘性あり。
	10	7.5YR4/6	褐色土	ローム粒子・As-C・炭化物ブロック (φ0.3cm) 微量、焼土ブロック (φ0.5cm) 多量含む。粘性あり、しまりやや強。

第4図 調査区全体図・1号住居跡土層断面・1号、2号住居跡掘り方

構埋没状態：自然埋没と思われる。遺物出土状態：北東隅の床面直上から須恵器坏の底部が1点、自然石が3点出土している。遺物：土師器の小片が出土している。また、黒曜石の石器も出土したが、この住居跡に伴う遺物ではないだろう。時期：出土遺物が少なく、年代推定が困難である。

2. 土坑

1号土坑（遺構：第4・5図）

検出状況：調査区南西隅に検出され、大部分が調査区外へと広がる。1号住居跡と重複し、本遺構が新しい。平面形態：後述(第VI章まとめ)するが、館跡の堀と想定される。規模：不明。残存深度：約55cm。底面の状態：非常に硬く締まっている。遺構埋没状態：As-Bを含む土で一度に埋没している。遺物：土師器や須恵器、瓦の小片が出土している。時期：覆土にAs-Bを含むため、12世紀以降の遺構であろう。

2号土坑（遺構：第4・5図／遺物：写真図版3）

検出状況：調査区南東隅に検出され、大部分は調査区外に広がる。平面形態：全容は不明だが、やや深い円形の土坑に楕円形のテラスがつくと思われる。規模：円形部は123cm×98cm、テラス部を含めると東西長153cm×南北残存長173cmを測る。残存深度：約33cm。遺構埋没状態：自然埋没と思われる。遺物：灰釉陶器、須恵器、土師器の小破片が出土している。灰釉陶器片が1点見られる。時期：出土遺物から10世紀代と考えられる。

3号土坑（遺構：第4・5図、写真図版2／遺物：第6図、写真図版3）

検出状況：調査区のほぼ中央に検出され、重複はない。平面形態：円形を呈する。規模：115cm×109cm。残存深度：約25cm。遺構埋没状態：単層であったが、住居の覆土と近似する。自然埋没と想定される。出土遺物：瓦片、土師器片、須恵器片がごく少量出土している。北壁には、凝灰岩が貼り付けられたように出土している。時期：不明。

4号土坑（遺構：第4・5図）

検出状況：調査区のほぼ中央に検出され、重複はない。西半分は試掘トレンチにより消滅している。平面形態：円形を呈し、2号土坑に近似する。規模：円形部は98cm×96cm、テラス部を含めると南北長205cm×東西残存長132cmを測る。残存深度：約23cm。遺構埋没状態：単層であったが、住居の覆土と近似する。自然埋没だと思われる。出土遺物：瓦片、土師器片、須恵器片がごく少量出土している。時期：不明。

5号土坑（遺構：第4・5図）

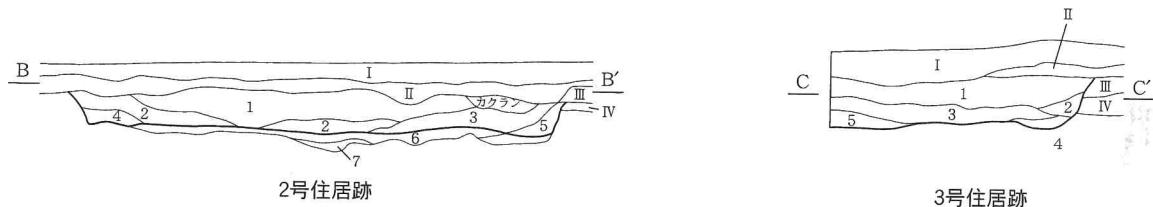
検出状況：調査区の西寄りに検出され、重複はない。一部上面を試掘トレンチに破壊される。平面形態：円形を呈する。北東隅はピット状を呈する。規模：南北長111cm×東西長108cm。残存深度：約22cm。遺構埋没状態：単層であったが、住居の覆土と近似する。自然埋没だと思われる。出土遺物：瓦片、土師器片、須恵器片がごく少量出土している。時期：不明。

6号土坑（遺構：第4・5図）

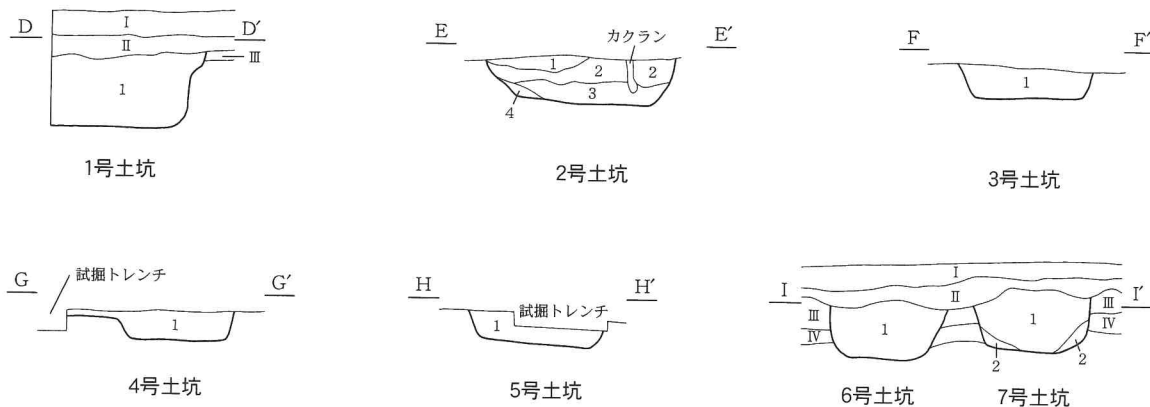
検出状況：調査区に東壁に沿いに一部が検出された。大部分が調査区外に広がっている。重複はない。平面形態：不明。規模：南北長95cm×東西残存長32cm。残存深度：調査区東壁断面にて約42cmを測る。遺構埋没状態：単層であったが、住居の覆土と近似する。自然埋没だと思われる。出土遺物：なし。時期：不明。

7号土坑（遺構：第4・5図）

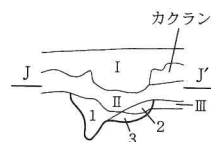
検出状況：調査区の東壁沿いに一部が検出された。大部分が調査区外に広がっている。重複はない。平面形態：不明。規模：南北長91cm×東西残存長38cm。残存深度：調査区東壁断面にて約48cmを測る。遺構埋没状態：単層であったが、住居の覆土と近似する。自然埋没だと思われる。出土遺物：なし。時期：不明。



- 2号住居**
- | | | | |
|---|---------|---------|---|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ローム粒子・焼土微量、As-C ($\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$) 中量含む。粘性やや弱、しまりあり。 |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | ローム粒子少量、As-C ($\phi 0.1 \sim 0.3\text{cm}$) 中量含む。粘性やや弱、しまりやや強。 |
| 3 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | ローム粒子微量、As-C ($\phi 0.1\text{cm}$) 少量含む。粘性・しまりやや弱。 |
| 4 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ローム粒子微量、As-C ($\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$) 少量含む。粘性やや弱、しまりあり。 |
| 5 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | ローム粒子少量、As-C ($\phi 0.1\text{cm}$) 微量、黒褐色土中量含む。粘性やや弱、しまりやや強。 |
| 6 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | ローム粒子・ロームブロック少量、As-C ($\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$) 中量、焼土・炭化物微量含む。粘性弱、しまり強。 |
| 7 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | ロームブロック中量、As-C ($\phi 0.1\text{cm}$) 少量含む。粘性・しまりやや弱。 |
- 3号住居**
- | | | | |
|---|---------|---------|---|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | As-C ($\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$) 中量、焼土微量含む。粘性やや弱、しまりやや強。 |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | As-C ($\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$) 少量、炭化物微量含む。粘性やや弱、しまりやや強。 |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | As-C ($\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$) 中量含む。粘性・しまりやや弱。 |
| 4 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | ローム粒子少量、As-C ($\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$) 中量、焼土・炭化物微量含む。粘性・しまりあり。 |
| 5 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | As-C 微量含む。粘性やや弱、しまりあり。 |
| 6 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | ローム粒子少量、ロームブロック・As-C ($\phi 0.1\text{cm}$) 微量含む。粘性・しまりあり。 |



- 1号土坑**
- | | | | |
|---|---------|------|--|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 砂質を呈する。浅黄色土ブロック ($\phi \sim 3.0\text{cm}$) を中量含む。粘性弱、しまりやや弱。 |
|---|---------|------|--|
- 2号土坑**
- | | | | |
|---|---------|------|--|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | にぶい黄褐色砂質土を含む。粘性弱、しまりやや弱。 |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | As-C ($\phi 0.1 \sim 0.8\text{cm}$) を中量含む。炭化物・焼土ごく微量含む。粘性あり、しまりなし。 |
| 3 | 10YR4/4 | 褐色土 | As-C ($\phi 0.18\text{cm}$) を中量含む。粘性ややあり、しまりなし。 |
| 4 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 2層に似るが、As-C を多量に含む。粘性あり、しまり弱。 |
- 3号土坑**
- | | | | |
|---|---------|------|--|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | As-C ($\phi 0.1\text{cm}$) 少量、ローム粒子微量含む。粘性ややあり、しまり弱。 |
|---|---------|------|--|
- 4号土坑**
- | | | | |
|---|---------|------|--|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | As-C ($\phi 0.1\text{cm}$) 少量、ローム粒子微量含む。粘性ややあり、しまり弱。 |
|---|---------|------|--|
- 5号土坑**
- | | | | |
|---|---------|------|--|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | As-C ($\phi 0.1\text{cm}$) 少量、ローム粒子微量含む。粘性ややあり、しまり弱。 |
|---|---------|------|--|
- 6号土坑**
- | | | | |
|---|---------|------|--|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ローム粒子少量、ロームブロック微量、As-C ($\phi 0.1\text{cm}$) 中量含む。粘性・しまりやや弱。 |
|---|---------|------|--|
- 7号土坑**
- | | | | |
|---|---------|------|--|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ローム粒子少量、ロームブロック微量、As-C ($\phi 0.1\text{cm}$) 中量含む。粘性・しまりやや弱。 |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ローム粒子・As-C 微量含む。粘性・しまりやや弱。 |
| 3 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | As-C 微量含む。粘性あり、しまり弱。 |



1号溝

- 1号溝**
- | | | | |
|---|---------|---------|--|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック・As-C を微量含む。粘性あり、しまりややなし。 |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | As-C 微量含む。粘性弱、しまりあり。 |
| 3 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | ローム粒子少量、As-C 微量含む。粘性弱、しまりややあり。 |



第5図 2号・3号住居跡、土坑、溝土層断面

3. 溝

1号溝（遺構：第4・5図）

検出状況：調査区西壁からN-41°-Eに向けて延びる。重複はない。掘り方は不均整で、底面には凹凸がある。
規模：幅約55cm×長200cm以上。残存深度：約30cm。遺構埋没状況：自然埋没と思われる。遺物出土状態：なし。
時期：不明。

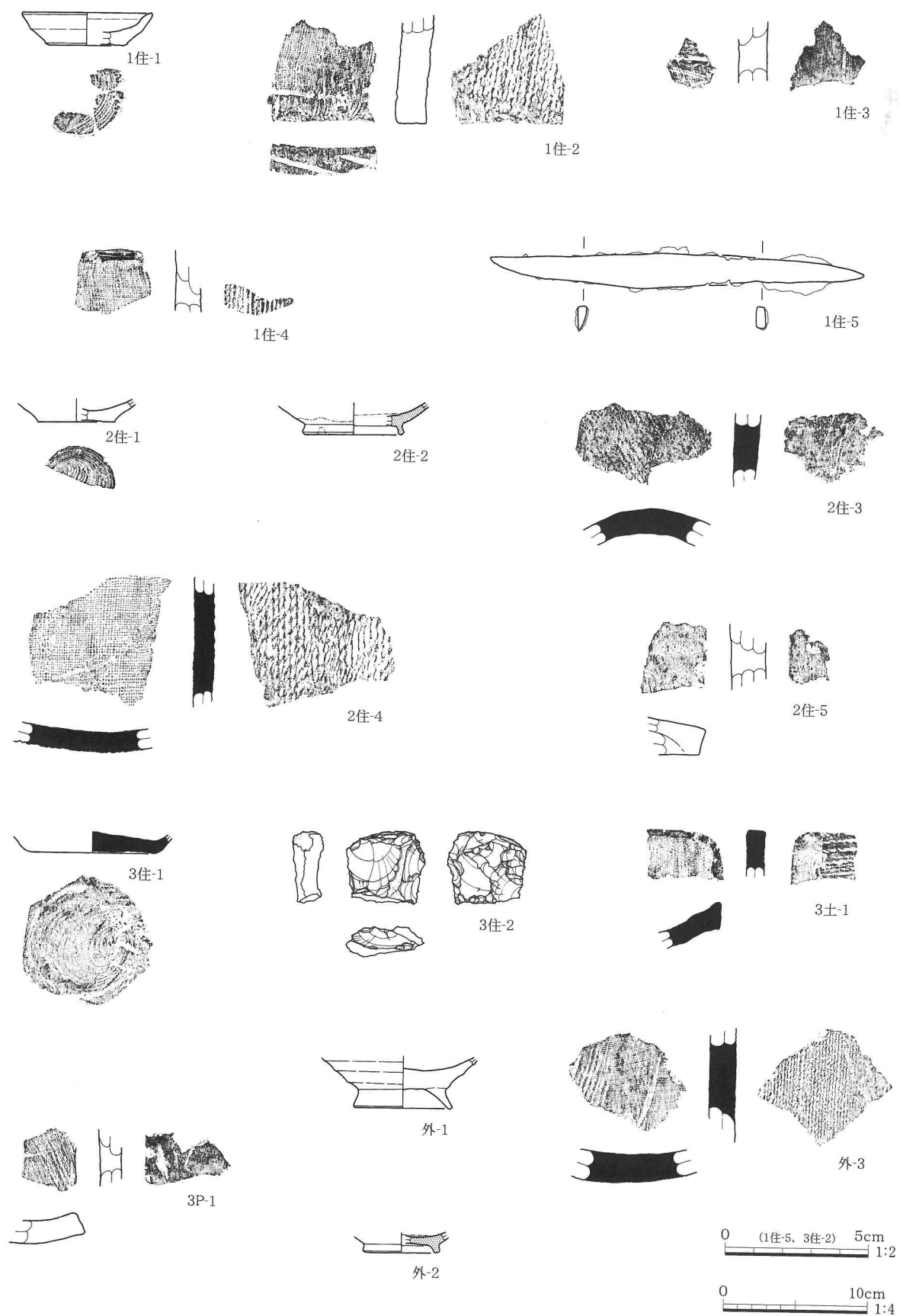
4. 遺構外出土遺物（第6図、写真図版3）

遺構外からは須恵器や土師器、近世陶磁器、剥片石器などの遺物が出土した。ここでは、土師器の埴や灰釉陶器片、瓦片を図示した。

第1表 出土遺物観察表

遺構名	No.	器種	法量	残存	成・整形等の特徴	色調・含有物等
1号住居跡	1	土師器 埴	口径 (9.1) 底径 (5.1) 器高 2.3	30%	外：ロクロ成形。底部回転糸切り後無調整。 内：ロクロ成形。	2.5Y7/4浅黄色 白色粒子・石英含む。
	2	瓦 平瓦	長 <8.0> 幅 <8.0> 厚 2.2	破片	凹面：布目。 凸面：縄叩き。	10YR8/3浅黄褐色 石英・角閃石含む。 二次被熱する。
	3	瓦 平瓦	長 <5.9> 幅 <5.0> 厚 <2.0>	破片	凹面：布目。 凸面：ナデ。	10YR7/4にぶい黄褐色 赤色粒子含む。 二次被熱する。
	4	瓦 平瓦	長 <4.2> 幅 <5.4> 厚 1.8	破片	凹面：布目。 凸面：縄叩き。	7.5YR7/4にぶい橙色 赤色粒子含む。 二次被熱する。
	5	鉄製品 刀子	長：13.0 幅：1.4 厚：0.3 重：15.89 100%。 錆が付着するものの、切っ先は鋭利。			
2号住居跡	1	土師器 埴	口径 — 底径 (5.4) 器高 <1.6>	10%	外：ロクロ成形。底部回転糸切り後無調整。 内：ロクロ成形。	10YR8/4浅黄褐色 石英・角閃石・白色粒子含む。 内外面にスス付着。
	2	灰釉陶器 高台付埴	口径 — 底径 (7.0) 器高 <2.2>	破片	外：ロクロ成形。貼付高台。灰釉漬け掛け。 内：ロクロ成形。見込み部に溶着痕あり。	10YR7/1灰白色
	3	瓦 丸瓦	長 <5.2> 幅 <8.8> 厚 1.8	破片	凹面：布目。 凸面：平行叩き。	7.5YR6/4にぶい橙色 石英・白色粒子含む。
	4	瓦 平瓦	長 <8.6> 幅 <10.3> 厚 1.4	破片	凹面：布目。 凸面：縄叩き。	2.5Y5/1黄灰色 角閃石・チャート含む。
	5	瓦 平瓦	長 <5.4> 幅 <4.5> 厚 2.6	破片	凹面：ナデ。 凸面：ナデ。	10YR6/3にぶい黄褐色 石英・白色粒子含む。
3号住居跡	1	須恵器 埴	口径 — 底径 8.6 器高 <1.5>	10%	外：ロクロ成形。底部回転ヘラ切り後無調整。 内：ロクロ成形。	2.5Y8/3淡黄色 角閃石・石英・白色粒子含む。 にぶい還元緑焰焼成。底部外面にスス付着。
	2	石器 剥片	長：2.5 幅：2.75 厚：1.05 重：6.62 黒曜石製。風化面を打面とする小型縦長剥片を折り切り後、3側縁に片面加工を施す。			
2号土坑	1	灰釉陶器 高台付埴	口径 — 底径 — 器高 —	破片	外：ロクロ成形。灰釉。 内：ロクロ成形。灰釉。	7.5Y7/1灰白色。 小片のため、写真のみ掲載。
3号土坑	1	瓦 平瓦	長 <3.4> 幅 <5.0> 厚 1.5	破片	凹面：縄叩き→ナデ。 凸面：布目。	5Y6/1灰色 白色粒子含む。
3P	1	瓦 平瓦	長 <4.1> 幅 <5.1> 厚 1.5	破片	凹面：布目。 凸面：ナデ。	7.5YR5/3にぶい褐色。 角閃石・白色粒子含む。
遺構外	1	土師器 高台付埴	口径 — 底径 (7.0) 器高 <3.6>	20%	外：ロクロ成形。高台貼付。 内：ロクロ成形。	10YR7/4にぶい黄褐色 角閃石・白色粒子含む。
	2	灰釉陶器 高台付埴	口径 — 底径 (5.4) 器高 <1.5>	破片	外：ロクロ成形。灰釉漬け掛け。 内：ロクロ成形。	10YR8/2灰白色
	3	瓦 平瓦	長 <8.1> 幅 <8.0> 厚 2.0	破片	凹面：布目。 凸面：縄叩き。	5Y6/1灰色 角閃石・白色粒子含む。

計測値はcm。重量はg。()は復元値、<>は残存値を示す。



第6図 出土遺物

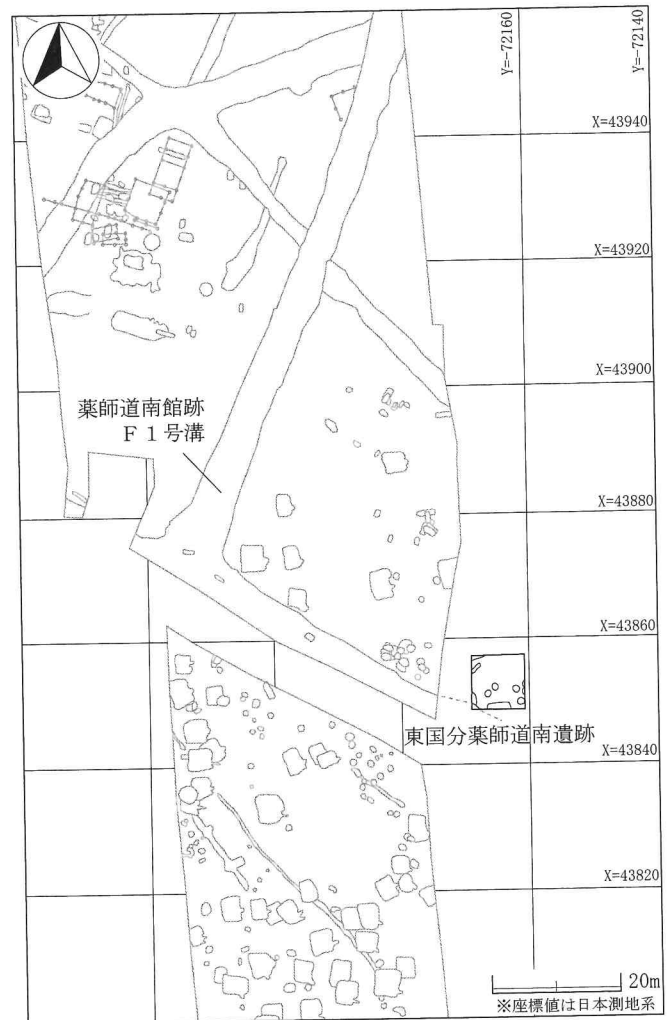
VI ま と め

今回の調査では、平安時代の住居跡を3軒、土坑を7基(うち5基は時期不明)、時期不明の溝を1条検出した。

本遺跡は、上野国国分寺と国分尼寺の間に立地している。国分寺は8世紀後半に造られ、10世紀末には衰退し荒廃したと「上野国交替実録帳」には記されている。今回検出した住居跡は、出土遺物から判断すると、おおむね10～11世紀であり、国分寺衰退期の集落である。住居跡からは、被熱した瓦片が出土しており、カマドに転用されたものと考えられる。この瓦は、荒廃した国分二寺から持ち出された可能性がある。カマドを検出し得たのは1号住居跡1軒のみであった。カマドは、南壁に付設され、周辺地域では東カマドが主流であることから、やや特殊な例である。

本遺跡は、関越自動車道建設時に上野国分僧寺・尼寺中間地域として調査された地区の東側に近接している。第7図^(注1)に国分僧寺・尼寺中間地域と本遺跡の位置関係を示した。今回検出された住居跡は、国分僧寺尼寺中間地域からの一連の集落として捉えられる。また、1号土坑は、その位置から中間地域で検出されている薬師道南館跡のF1号溝と同一遺構の可能性が高いが、底面が硬化している点が異なっている。薬師道南館跡は14～15世紀に造営され、蒼海城の城主である長尾氏に関連する館であると推定されている(木津・桜岡1987)。

以上のように、本遺跡では国分二寺衰退期の集落と、薬師道南館跡の堀の一部を検出した。中間地域と同様に、国分二寺造営期の遺構は検出されず、空閑地域として管理され、その衰退とともに集落域へと変化したものと考えられる。



第7図 国分寺・国分尼寺中間地域D・F区との位置関係

(注1) 第7図は、上野国分僧寺・尼寺中間地域D区及びF区(木津・桜岡1987、1988)を再トレースしたものである。また、本報告では世界測地系に基づいているが、中間地域は日本測地系を用いている。よって、第7図は中間地域に合わせ、日本測地系に基づいて作成した。

【参考文献】

- 木津博明・桜岡正信 1987 『上野国分僧寺・尼寺中間地域2』群馬県埋蔵文化財調査事業団
 木津博明・桜岡正信 1988 『上野国分僧寺・尼寺中間地域3』群馬県埋蔵文化財調査事業団
 群馬町史編纂委員会 1997 『群馬町史 資料編1 原始古代・中世』
 坂口 一・三浦京子 1986 「奈良・平安時代の土器の研究」『群馬県史研究』24

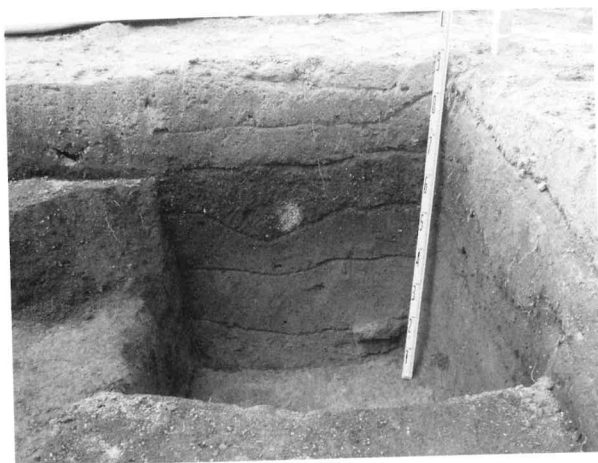
写真図版



調査区から赤城山を臨む



調査区全景（上が東）



基本層序



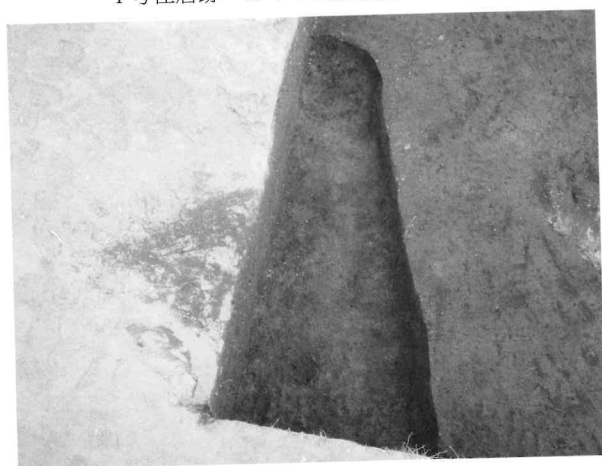
1号住居跡 全景 北から



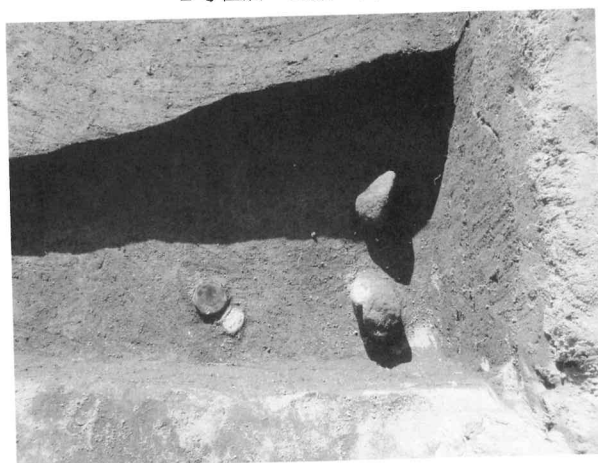
1号住居跡 カマド土層断面 東から



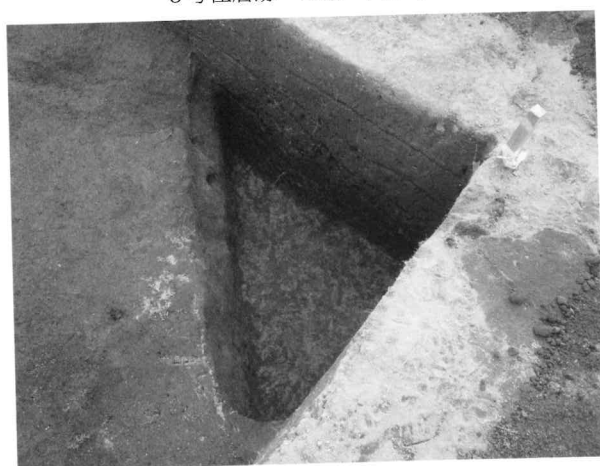
2号住居 全景 西から



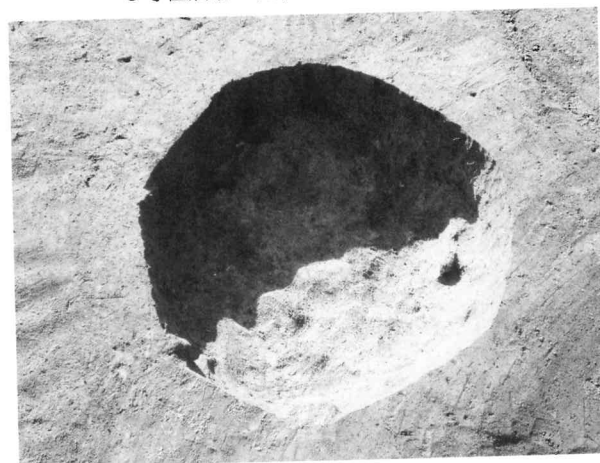
3号住居跡 全景 西から



3号住居跡 遺物出土状況 北から



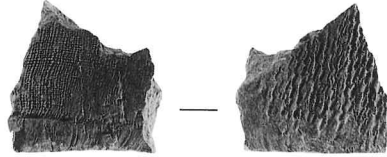
1号土坑 全景 西から



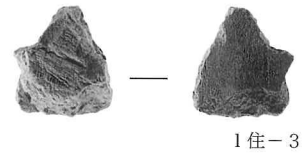
3号土坑 全景 北から



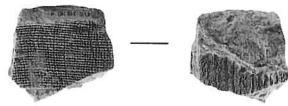
1 住-1



1 住-2



1 住-3



1 住-4



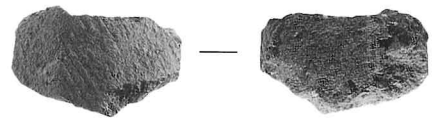
1 住-5



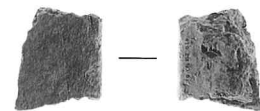
2 住-1



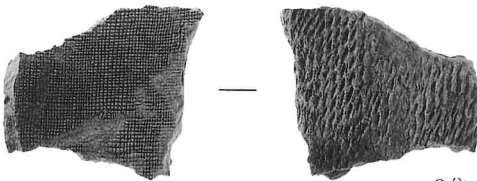
2 住-2



2 住-3



2 住-5



2 住-4



3 住-1



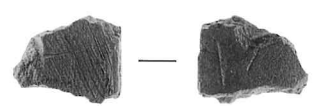
3 住-2



2 土-1



3 土-1



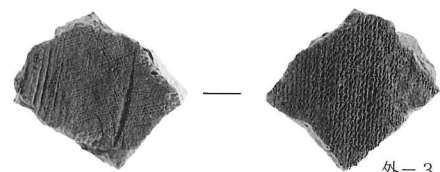
3 P-1



外-1



外-2



外-3

報告書抄録

フリガナ	ヒガシコクブヤクシミチミナミイセキ
書名	東国分薬師道南遺跡
副書名	携帯電話無線基地局建設に伴う埋蔵文化財調査報告
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第221集
編著者名	斎藤寛方 宮本久子
編集機関	高崎市教育委員会 〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地 1 Tel027-321-1292
発行機関	高崎市教育委員会
発行年月日	平成20年3月31日

フリガナ 所収遺跡名	所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
ヒガシコクブヤクシミチミナミイセキ 東国分薬師道南遺跡	群馬県高崎市東国分町150番地 6 他	102020	410	36° 23' 33"	139° 01' 44"	20071203 } 20071214	約64m ²	携帯電話無線 基地局建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東国分薬師道南遺跡	集落	平安時代 中世 時期不明	住居跡 3 軒 土坑 6 基（5 基時期不明） 土坑（堀カ）1 基 溝 1 条 ピット 4 基	土師器・須恵器・鉄製品（刀子）・石器・近世陶磁器	

高崎市文化財調査報告書 第221集

東国分薬師道南遺跡

— 携帯電話無線基地局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

平成20年 3 月25日印刷

平成20年 3 月31日発行

編集・発行／高崎市教育委員会

群馬県高崎市高松町35番地 1

TEL 027-321-1292

印刷・製本／朝日印刷工業株式会社

群馬県前橋市元総社町67

TEL 027-251-1212